

はじめは放送による問題です。

春男さんたちのクラスでは、学校の文化祭の中で学校の紹介しやうかいをすることになりました。春男さん、秋雄さん、夏子さん、冬美さんの四人は、運動会について展示で紹介します。

これから放送するのは、春男さんたちが、どんな展示内容にするかを話し合っている様子です。司会は春男さんです。放送を聞いて次の各問に答えなさい。(放送は一度だけです。放送中にメモをとってもかまいません。)

問1 司会者の春男さんは、話し合いを進める上でどんな工夫くわうをしていましたか。次のアからエの中から最もふさわしいものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア まず最初に一人一人の意見を発表してもらってから、みんなで話し合う手順ですすめていた。

イ 一人一人の意見について、一度その要点をまとめて言い直してから、次の発言をうながしていた。

ウ 一人指名して発言させたら、その人の考えについて、質問・意見の順でみんなに問いかけていた。

エ 話し合いの前に自分の考えをまとめる時間をとり、その上で話し合いを始めていた。

問2 「どんな種目があるかを紹介する」という最初の提案に対して、どんな問題点が指摘しごされましたか。二十字以内で簡潔に答えなさい。

問3 途中で話し合いの流れから話題がそれる場面がありました。何の種目が話題になったときでしたか。次のアからエの中から最もふさわしいものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 全員リレー イ 大なわとび ウ いかだ流し エ 台風の日

問4 話し合いの流れから話題がそれたとき、司会者の春男さんはどうしましたか。次のアからエの中から最もふさわしいものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 自分もそれた話題にのって話した。

イ 話題からそれたことを指摘してもとにもどした。

ウ それた話題で話し合うほうが良いかみんなにきいた。

エ 話題をもどすために感情的になった。

問5 「あとはどんな工夫が必要かしら。」と聞かれた夏子さんは、どんなことが大切だと考えましたか。夏子さんの考えを「展示の○○を考慮すること」という形でまとめるとして、「○○」に入る言葉を漢字二字で答えなさい。

問6 司会者の春男さんは、最後の発言をうけて、次のように発言して話し合いを進めていこうと考えました。
[] にあてはまる語句を書きなさい。

「ではどうしたら [] が伝わるか話し合いましたよ。」

放送問題用のメモらんとして使いなさい。

るのは、多くの人が年齢や学年を、はっきりとした具体性を「おびたもの」として捉えているからではないでしょうか。

年齢は誕生日を「さかいに重ね上げていくもの」、学年は年度ごとに上がっていくものであり、たとえて言うなら、年ごとに一段一段の階段を上がるように「個」を抱かせます。思い出すと、私が小・中学生だった頃は生徒は学年が上がるにつれ、教室も校舎内の上の階へと移動していきました。当時は学年別にジャージやスポーツバッグの色が決められていて、部活などでも学年差は上下関係を決定づける最も大きな要因で、学年間の格差は、たとえ1学年であっても、非常に大きな違いであると感じていたものでした。年齢や学年の1年のズレは、我々にとって非常に大きな意味を持っているのです。

⑤、この「階段」としての年齢差・学年差は「1つ、2つ」で数えることができます。実際の階段であるならば「1段、2段」と数えてもいいでしょう。しかし、年齢差や学年差は、「つ」で数えるほど漠然としたものでもなく、「段」で数えるほど階段としての実体を持っているものでもない、いわば意識の中の段差とでも言うべきもの。そして、相手との間に確かに存在するこの段差を際立たせる数え方として、「個」がびったりすると考えられたのではないのでしょうか。

年齢や学年の、そう大きくない差を言う「1個上/下」などの表現が今でも広まっている根底には、年の差の捉え方がより具体性をおび、そのイメージが「個」で数えるにふさわしいものだと感じられるようになったことが関わっていると思います。そうなると、これは、もはや間違った日本語であるとは言えませんが、むしろ、会話において年齢や学年の差を際立たせる言い方として自然に生まれた表現なのです。

(飯田朝子「数え方もひとしお」(小学館)より一部改)

注1 文化庁……言葉などの文化を守り、広めるための仕事を担当している国の役所。

注2 世論調査……多くの人々の意見を調べること。

注3 浸透……液体がしみ通るように広くゆきわたっていくこと。

注4 助数詞……数え方を表すときの言い方のこと。

注5 サークル……同じ趣味を持った人が仲間となって活動する集まりのこと。

問1 文章中の「おびた」「さかい」を漢字で書きなさい。(送りがなが必要な場合は正しく付けること。)

問2 ①市民権を得た数え方とありますが、この言葉の意味として最もふさわしいものを、次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア まちがっているにもかかわらず使われている数え方
- イ 多くの人にその使い方が認められている数え方
- ウ 市民団体の中で許可された数え方
- エ 新たに法律で権利として認められた数え方

問3 ②意外な問題点とありますが、その「問題」を言い換えた言葉を文章中から二十五字以内で探し、最初と最後の五字を書きなさい。

問4 ③に入る言葉として最もふさわしいものを、次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 具体的
- イ 個別的
- ウ 一方的
- エ 一般的

問5 ④に入る言葉を文章中から四字で抜き出して書きなさい。

問6 ⑤に入る言葉として最もふさわしいものを、次のアからオの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア しかし
- イ そして
- ウ あるいは
- エ ところで
- オ もちろん

問7 なぜ過半数もの大人が間違った助数詞をそのまま使い、年々それを広めているのかとありますが、その結論として筆者が考えた意見を「……ため」という言葉につながるように、文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

問8 さくらさんは、この文章を読んで日本語のものの数え方について興味を持ち、次の表を作りました。

【もの】	【数え方】	【分け方】
お皿 花びら ざるそば	枚	うすくて平べったいもの
A	杯 <small>は</small>	うつわに満たして数えるもの また、うつわの形に似たもの
キャベツ すいか ラーメンのめん えんぴつ バナナ ロープ	B	丸くてひとかたまりのもの
	本	C
		もの

(1) Aにあてはまる【もの】を、次のアからコの中からすべて選び、その記号を書きなさい。

- ア ぶどう イ せみ ウ コーヒー エ 水 オ 象
 カ くじら キ いか ク とうふ ケ りんご コ 傘かさ

(2) Bに入る【数え方】として最もふさわしいものを、次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 盛り イ ふさ ウ 玉 エ 切れ

(3) Cにあてはまる【分け方】を、他の【分け方】を参考に、最後が「……もの」で終わる形で説明しなさい。

Ⅲの問題は
 ページの
 1ページ目。

三 次の【あ】から【お】の詩や俳句を読んで後の各問に答えなさい。(作品は現代かなづかいに改めてある。)

【あ】 雪の朝 草野心平

まぶしい雪のはねつかえし。
青い。

キララ子たちははしゃいで。
跳びあがったりもぐったりしての鬼ごっこだ。

ああ。

まぶしい雪のはねつかえし。

自分の額にもキララ子は映り。

うれしい。

空は [] ① とまえに乗りだし。

天の天まで見え透くようだ。

【い】 咳をする母を見上げている子かな 中村汀女

【う】 凧や海に夕日を吹き落とす 夏目漱石

【え】 雪とけて村いっばいの子もかな 小林一茶

【お】 いくたびも雪の深さを尋ねけり 正岡子規

問1 【あ】の詩に出てくるキララ子たちで用いられている表現上の工夫を何と言いますか。次のアからエの中から最もふさわしいものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 比ゆ イ 体言止め ウ 呼びかけ エ くり返し

問2 【あ】の詩の [] ① に入る言葉として最もふさわしいものを、次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア ゴロン イ ジーン ウ バタン エ グーン

問3 【あ】の詩に表れている天気として最もふさわしいものを、次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 雨 イ くもり ウ 晴れ エ みぞれ

問4 次の文は【お】の俳句について述べたものです。 [] ② にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、後のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

寝たきりの作者が、降り積もる雪に心おどらせながらも、自分では見られない [] ② 思いを句にした。

ア 重苦しい イ もどかしい ウ あさましい エ いじらしい

問5 【あ】から【お】の作品の中で季節が他と異なるものはどれですか。【あ】から【お】の中から一つ選び、その記号を書きなさい。

国語

答案用紙

※ていねいな正しい文字で書きなさい。

一の問題の答え

問6	問3	問2	問1
	問4		
	問5	20	
			15

二の問題の答え

問8	問7	問4	問3	問1
(3)	(1)		最初	あ
もの				
			問5	
				い
				}
		(2)		最後
			問6	
				問2
			10	
			15	
			ため。	

三の問題の答え

問4	問1
問5	問2
	問3

受検番号